

プロフィール（自己PR）

・ 宝石商の一人息子として生まれ、その跡を継ぐべく中学生のころから父に連れられて東南アジア・インドなどを回りました。大学卒業後アメリカに留学し、物質的繁栄以外の価値を探そうとしていたカウンターカルチャーの若者たちの影響を受け、帰国後社会科の教師になりました。ですから世界がどうなっているか、その中で日本だからこそ果たせる役割をどう果たしていくかという視点から、教育を考えてきました。

・ 2001.9.11アメリカ同時多発テロ後に、ジョン・レノンの「イマジン」がアメリカ社会で大きな意味を持ったことをテーマにした授業を中学校で行い、生徒たちとオノ・ヨーコさんとの交流も生まれました。それがNHKで『世紀を刻んだ歌 イマジン』というドキュメンタリー番組になり、教育番組の賞 日本賞文部科学大臣賞をとり、何度も再放送されました。

・ ずいぶん荒れた学校にも行き苦勞もしましたが、30年以上勤めるうちに、生徒に「何でできないんだ!」と思ってしまう自分の心をまず転換することが大切だと分かってきました。「生徒を変えよう」から「生徒に何を伝えたかったのか」のもととの自分の願いに転換するとき、自然と生徒の内なる可能性が表れてきます。つまり教師が変われば生徒は変わるのです。それは変わらないように見える生徒を見て、無力感・虚無感に陥ってしまう教師にとって希望です。

そのことを2冊の本『魂が目覚める社会科授業』『魂が目覚める中学経済の授業』（共に現代書館）にまとめました。好評を頂いています。

・ 教師がもう一度希望と願いを取り戻し、子どもたちが生き生きと生きれるようにするには教育界のことだけ考えているのでは限界があると考え、誰一人見捨てられない社会のシステムづくりを多くの方と進めていきたいと考え、一般社団法人を設立し、ブログによる発信も行っています。 <https://universe-t.com/>

そして今回、中野区教育委員候補者に自薦させていただきました。

・ 長く中央線沿線に住み、沿線の中学校に勤務し、中央線文化に親しみ、音楽評論なども書いてきました。ミュージシャン、アーティストたちの知り合いも多いです。

・ さらに2025年問題を目前にして、ご高齢者が元気になり、社会に貢献して頂くための「おとなの学校」のシステム 教材づくりに取り組んでいます。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題）子どもたち誰もが喜びをもって登校できる学校の復活 について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1.子どもたちが、「生きる」上で、最も大切なことを学んでいるという実感を得られる教科活動・行事・特別活動を創造するという方向性を立てる
- 2.現代の大きな病である「断絶」ではなく、生きるエネルギーのもととなる「私たち」というつながりの感覚を、取り戻してあげられる教育活動を意識し続ける。学力テストの得点などにこだわりすぎない。
- 3.学校全体として、子ども達が高齢者施設など、世代を超えて地域と関わる体験ができるよう推進する。

2.（課題）教員が教育の喜びを取り戻す について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1.教員を孤立させず、今抱えている問題を安心して吐き出してもらい、それを吸い上げることが出来る環境・人・システムづくりを目指す。
- 2.「生きる」上で最も大切なことは何で、それをどう子ども達に伝えるかという中心軸を、仲間・同僚・関係者全体で深めることが出来るシステムづくり。
- 3.そのための、教員の時間的余裕を作り出す。可能な限りの授業時数の軽減と、本来の教育活動から離れている事務の簡素化を強く推進する。

3.（課題）不登校・引きこもりなど、孤立する生徒・家庭のサポート について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1.学校を含めた地域全体で支え、悪いこととだけとらえずに見守る方針の徹底。
- 2.困っておられるご家庭が気楽に相談できる窓口の充実。教育と福祉の連携。
- 3.カウンセラーとサポート・スクールの充実と広報。フリースクールへの支援と連携。

氏名 藤原 孝弘

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

2023年度小中学生の不登校は34万人、いじめは73万件、いずれも過去最高です。私も現場でコロナ以降、人と関わることを恐怖する子供達が非常に増えたと実感しています。その危機の深さは尋常ではありません。現場の先生方も、痛む生徒達とどう出会ったら良いのか分からず、1人で悩み、新任教員の1年以内の退職率は4.9%にも上ります。未来を創る大切な子供達を元気にするには、まず先生方に元気になってもらわねばなりません。私は30年以上現場で子供達と出会い、大変な生徒も多く、苦しみもしました。やがて子供達を変えようとする前にまず自分が変わり、子供達への願いを取り戻すことこそが大切だと分かってきました。すると子供達との出会いが変わり、素晴らしさが見え、教育とは何と素晴らしい仕事だろうと思うようになりました。その喜びを、まず中野の多くの先生方が取り戻していく、その支えとなりたいと願っています。